

第33回： 生き物から水環境をみる（Ⅱ）

開催日： 1998年3月2日～3日 / 会場： 「きゅりあん」東京都

開催趣旨： 生き物は、水質・水量・水辺地と並んで、水環境の重要な構成要素である上に、多様な生き物の保全は、地球環境の重要課題でもあります。しかし、現状では、生き物から水環境をみる観測・研究、および保全への取り組みが各所で十分に行なわれているとは言い難い状況です。そこで、昨年度のセミナーで要望が多かった、生物の種多様性と保全、その裏打ちとしてのすみ場の多様性について取り上げ、広範な水環境の質を評価する基礎とする一方で、各地での生物の保全・回復への取り組み事例を学ぶセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 生物の多様性とその保全（樋口広芳／東京大）
- 生物を保全すること—植物の視点から—（鷲谷いづみ／筑波大）
- すみ場の多様性の保全—水生動物の視点から—（竹門康弘／大阪府立大）
- すみ場の多様性の保全—魚類の視点から—（水野信彦／愛媛大・名誉）
- すみ場の多様性の保全—すみ場の階層性の視点から—（桜井善雄／応用生態学研）
- 矢作川における生命の循環性の現状と対応策（村山志郎／豊田市矢作川研）
- 多摩川における応用河川生態調査（小倉紀雄／東京農工大）
- 都市河川の多自然型川づくり（土屋十囀／東京都土木技研）
- 霞が浦ビオパーク（相崎守弘／島根大）
- ため池の生物と環境（村上哲夫／名古屋市環科研）
- 沿岸生物環境の再生・創造のための人工干潟造成（細川恭史／運輸省港湾技研・今村均／五洋建設(株)技研）